福岡水海技セ研報　第19号　2009年３月
Bull. Fukuoka Fisheries Mar. Technol. Res. Cent. No19. March 2009

福岡県有明海産のアサリの流通について

篠原　満寿美[1]・徳田　眞孝[2]・杉野　浩二郎[3]
（[1]研究部・[2]企画管理部・[3]有明海研究所）

有明海において，アサリ漁業は非常に重要な主幹漁業である。近年，福岡有明における覆砂事業による底質環境の改善等によりアサリの資源量は回復しているが，アサリの産地単価は安価である。今回，アサリの生産量の動向，流通の実態，価格形成を把握し，今後，有明有明のアサリ漁業者の漁家経営を安定させるためにどのような方策をとる必要があるかについて検討した。その結果，流通体制が浜仲買主導であることが大きな問題であることがわかった。この問題に取り組むためには，産地単価の向上をめざした生産者主導の共販体制づくりが必要である。

キーワード：浜仲買，稚貝採捕，共販体制

有明海は日本最大の干潟が広がり，この海域特性を利用してノリ養殖と採貝業が２本柱の主幹漁業となっている。このなかで，アサリは，採貝漁業者にとって重要な漁獲対象資源であり，ノリ養殖業者にとっても貴重な兼任漁業種となっている。しかし，福岡有明におけるアサリの生産量は1990年以降減少し[1)]，1,000 ～ 3,000トン前後で低く推移していた。近年，覆砂事業による底質環境の改善等によりアサリの生産量は回復しているが，産地単価は安価であり，生産量が増加している現在でも，漁家経営は厳しい状況である。

今回，生産量の動向，アサリ流通の実態，価格形成を把握し，今後，アサリ漁業者の漁家経営を安定させるために，どのような方策をとる必要があるかについて検討した。

方　法

アサリの生産量は漁業養殖業生産統計年報[2)]，アサリの輸入量は貿易統計[3)]，市場流通量は福岡市中央卸売市場年報[4)]，広島市中央卸売市場年報[5)]，大阪市中央卸売市場年報[6)]，京都中央卸売市場年報[7)]，東京都中央卸売市場年報[8)]，仙台市中央卸売市場年報[9)]を使用した。また，福岡有明におけるアサリの漁獲状況を把握するために，専業の採貝漁業者（２経営体）に漁獲月日，漁獲量，単価，出荷先等についての操業日誌記入を依頼し，調査を行った。各流通段階でのアサリの単価を把握するために，県内の量販店等における小売販売単価調査を行った。

結　果

１．アサリの流通量について

図１に全国及び主なアサリ生産県の生産量と輸入量の推移を示した。全国の生産量をみると，1980年代前半までは12 ～ 16万トンで推移していたが，1980年代後半から減少に転じ，2000年以降は４万トン前後の生産量となっている。福岡県のアサリ生産量は1970年以降，１～２万トンの生産量であり，1983年は７万トンと高い生産量であったが，1990年以降，生産量は激減し，多い年で数千トン，少ない年では数百トンの低推移を示している。

アサリの輸入量の統計データは1988年からとられるようになり，当初2.6トンであった輸入量が年々増加し，2000年には６万トンを超える量となった。国内のアサリ生産量が減少し，その減少分を輸入アサリで補充する形となり，2005年には，国内において流通しているアサリの約半分を輸入アサリが占めている。

２．アサリの流通実態

（１）福岡県有明海産

福岡有明のアサリの流通を，商社に対する聞き取りにより把握し，図２に示した。「浜売り」と呼ばれる市場外流通が中心であり，集荷業者である浜仲買が漁業者から漁獲したアサリを直接買い付け，それを集約する大小の商社が選別・畜養・砂出し・パック加工などを行い，卸売市場や量販店に出荷している。アサリの流通商社の事業規模は，家族経営の小さい商社から，従業員100名以上の大きい商社までさまざまである。アサリは，漁業

者が漁獲してから，消費者に販売されるまで，選別，砂抜き，畜養に時間を要し，消費者の手にアサリが届くまで漁獲後約５～６日かかる。

（２）他のアサリ産地

他のアサリ産地では，従来，浜売りなどの市場外流通が主流であったが，漁業者主体のアサリ流通体制を構築するために，20年ほど前から，漁連や漁協主体の共販システムや加工販売事業による独自の流通体制を確立している。

各県漁連に聞き取り調査をおこなった結果，熊本県漁連は1979年から競争入札制度である共販を導入し，現在，県内約20漁協が参加し，指定商社12～20社の仲買業者を通じて県内外にアサリを流通させている。

千葉県漁連は県産アサリの生産者単価の安定と消費者ニーズにあった商品の安定供給を図ることを目的として，1983年に木更津にアサリ事業場を開設し，アサリの買い取り，選別，砂抜き，パック詰め等の加工販売を行っている。出荷先は関東地区を中心とした量販店，小売店や生協である。

三重県漁連は1982年に大淀貝類流通センターを開設し，千葉県漁連と同様に，加工販売を行っている。また，三重県の松阪漁協や伊勢市漁協では，漁協が中心となって定期的にアサリの入札を行っている。

３．アサリの単価形成

（１）福岡県有明海アサリの産地単価

図３に，2007年度の採貝漁業者の一人当たりの月別アサリ漁獲量と月別アサリ単価を示した。漁業日誌を依頼した採貝漁業者平均の漁獲量，水揚げ金額及び単価を表１に，漁獲された小型アサリと中型アサリの割合を図４に示した。年間に約10トンを漁獲し，水揚げ金額は約200万円，平均単価は189円 /kg であった。年間を通して漁獲されるアサリのサイズの割合は小型（殻長30～34mm 程度）が45%，中型（殻長35mm 程度）が55%であり，小型アサリの漁獲量が全体の約半分を占めることがわかった。

両者とも出荷先はすべて浜仲買であり，経営体あたりの月別漁獲量は，小型アサリが５～７月にもっとも多く約700kg/ 月が漁獲され，中型アサリは10～12月にもっとも多く約900kg/ 月が漁獲されていた。アサリの月別平均単価をみると，小型アサリで４月に175円 /kg と高く，５月以降は140円 /kg で安定しており，年間平均単価は147円 /kg であった。中型アサリは４～６月及び２～３月と250～280円 /kg，７月～１月は200～240円 /kg で，年間平均単価は240円 /kg であった。

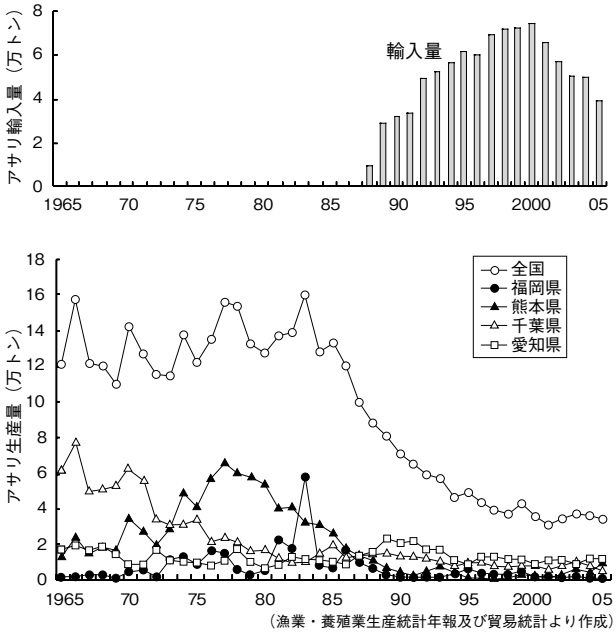

図１　アサリ生産量と輸入量の推移

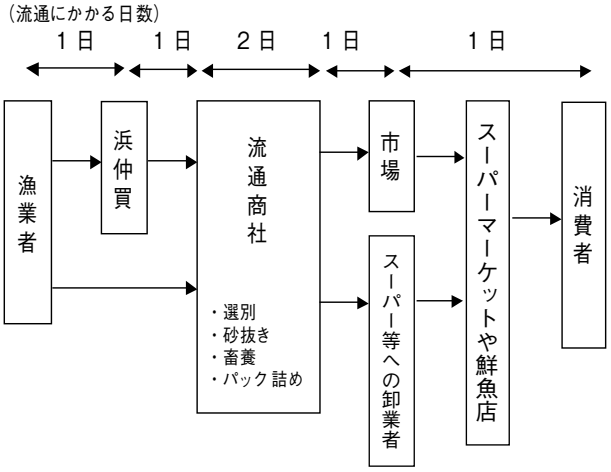

図２　福岡有明のアサリ流通経路

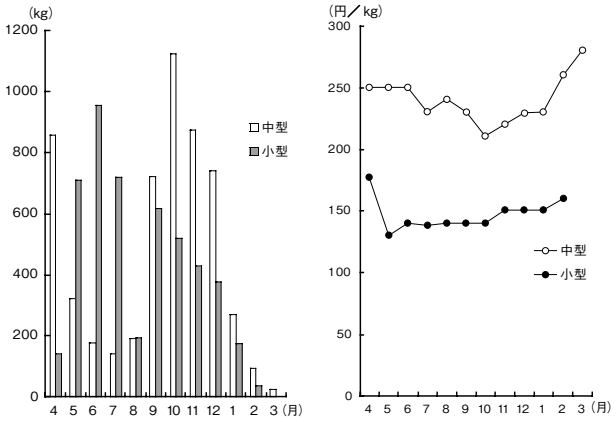

図３　一人当たりの月別アサリ漁獲量（左）と月別のアサリ浜値単価（右）

（2）福岡県産アサリの市場単価

表２に，2006年の主な中央卸売市場における福岡県産アサリの単価と年間取扱量を示した[4-9]。平均単価をみると，いずれの中央卸売市場でも450円 /kg 前後であり，中央卸売市場による違いはみられなかった。なお，東京都及び仙台市中央卸売市場での年間取扱量は１トン以下と少なく，平均単価は参考値とした。

（3）アサリの小売販売単価

表３に，量販店等の小売販売店での販売単価を示した。アサリの平均小売販売単価をみると，福岡産（有明海産）及び熊本産の平均単価は約1,000円 /kg，愛知産では1,290円 /kg，福岡豊前産では1,620円 /kg，福岡能古産では1,990円 /kg，中国産では920円 /kg，韓国産では770円 /kg となった。「特大」表示でアサリサイズの大きさを売りにしている愛知産，福岡豊前産や福岡能古産のように狭い範囲における地域ブランドが定着しているアサリは高値で販売されていた。

考　　察

2006年の福岡有明のアサリ生産量は5,900トンであり全国第２位と高いが，流通体制は，従来の浜仲買主導の市場外流通が中心である。

各流通段階でのアサリの単価を図５，アサリの平均単価を表４に示した。福岡有明産の産地単価（浜値）と熊本産の産地単価（熊本漁連共販単価）を比較すると，熊本産の産地単価が約1.5倍高いが，小売販売単価をみると，福岡産（有明海産）と熊本産の単価差はない。この産地単価の差額には，浜仲買の利益・流通商社の利益・選別経費・流通経費等が含まれると考えられ，これらの中間流通における利益のために，福岡有明産の産地単価が低く抑えられていると推測される。また主に福岡中央卸売市場に直接出荷されている福岡能古産の産地単価は福岡有明産の単価と比べると約５倍高く，小売販売単価でも福岡能古の単価は福岡有明産より約２倍高い。福岡能古産では，サイズや鮮度などの品質管理・地域ブランドの確立に取り組んでおり，この結果，「単価は高くても美味しいアサリを食べたい」という消費者に認知されているようだ。このことから，福岡有明産と福岡能古産の産地単価の違いは，品質管理・地域ブランドの確立によることが要因の一つと考えられる。今回の結果と同様に，廣吉，長濱[10] は，アサリのサイズ，品質，鮮度といったアサリ固有の商品化の要因によって単価の産地差は拡がる傾向があると指摘しており，アサリの小売販売単価は一般的な値頃感のある価格体のアサリと，品質管理・地域ブランドなどの規格・差別化された高値のアサリにわかれていて，福岡有明産は一般的な値頃感のあるアサリとして流通していることがわかった。

今後，福岡有明のアサリ漁業者の漁家収入向上を目指

表１　２経営体のアサリ漁獲量，水揚げ金額及び単価

	アサリ漁獲量	水揚げ金額（千円）	単価
A 経営体	10,352 kg	1,978,060 円	191 円／ kg
B 経営体	10,440 kg	1,941,267 円	186 円／ kg
平均	10,396 kg	1,959,664 円	189 円／ kg

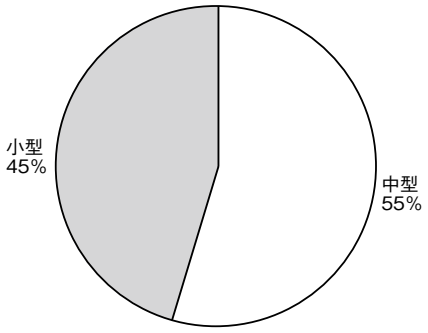

図４　漁獲された小型アサリと中型アサリの割合

表２　主な中央卸売市場における福岡産アサリの単価（2006年）

	平均単価(円／kg)	年間取扱量(t)
福岡市中央卸売市場	431	196
広島市中央卸売市場	458	87
大阪市中央卸売市場	467	229
京都市中央卸売市場	478	83
東京市中央卸売市場	(1313)	0.1
仙台市中央卸売市場	(412)	0.6

表３　量販店等の小売販売店でのアサリ販売単価

表示	価格帯（円／kg）	平均単価（円／kg）	調査件数
有明海産	690円～1480円	1010円	34件
熊本産	750円～1650円	1040円	42件
愛知産	790円～1680円	1290円	8件
福岡豊前産	1280円～1800円	1620円	3件
福岡能古産	1980円～2000円	1990円	2件
中国産	890円～950円	920円	3件
韓国産	670円～850円	770円	3件

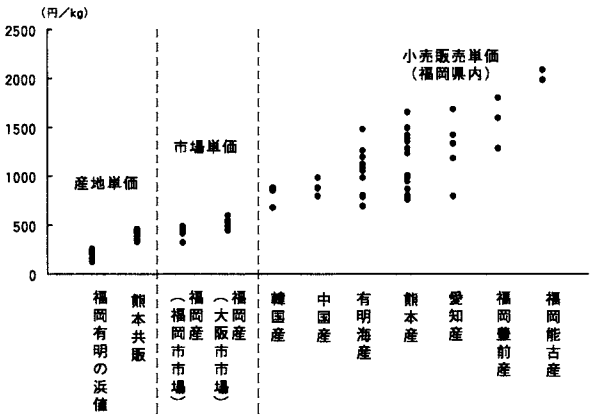

図５　各流通段階でのアサリの単価

表４　各流通段階でのアサリの平均単価

	福岡有明産	熊本産	福岡能古産
産地単価（円／kg）	189円	350円	1000円
市場単価（円／kg）	431円	522円	
小売単価（円／kg）	1010円	1040円	1980円

表５　福岡県産を用いたと思われる稚貝量

放流県	稚貝サイズ(mm)	稚貝(t)
A県	16	80
B県	24～26	42
C県	15	5
合計	―	127

すためには，産地単価である「浜値」を向上させることがもっとも重要である。主なアサリ産地が漁協・漁連の共販体制作りに取り組んでいることや熊本漁連の共販のアサリ単価が福岡有明産の浜値より高いことから，現在の浜仲買主導体制を漁業者主導の共販体制にかえていくことが福岡有明産の産地単価の向上に不可欠であることがわかる。また，単価の高い地域ブランドのアサリが存在するため，大きさ・鮮度など他の産地と差別化できる福岡有明産アサリを提供することができれば，販売単価の向上の可能性もありうる。現在，福岡有明の漁協が筑前海の漁協直営の水産物直販所に直接アサリを運搬し，福岡有明アサリの販売を行っている。直販所では，計り売りで新鮮さをアピールしながら販売しており，小売販売単価は625円 /kg で，継続的に売れている。小売販売単価としては低いが，浜仲買を通さず，直接漁業者の単価に反映されるため，単価は現在の福岡有明産の浜値と比較すると約３倍になっており，直接消費者に販売する方法はアサリ単価向上の有効な方法の一つであることが示唆された。

一方，福岡県漁業調整規則では，殻長30mm 未満のアサリは採捕及び所持販売が禁止されているが，毎年，アサリ殻長制限違反で検挙者がでるなど，稚貝の違法採捕が多く，県としては徹底した漁業取締りを行っている。しかし，国内のアサリ産地では，アサリ漁場にアサリ稚貝を移植放流し，成長をまって漁獲漁場あるいは潮干狩り漁場として活用している実態がある。この放流用の種苗として福岡有明で採捕されたアサリ稚貝が使用されていると言われている。この稚貝採捕状況を把握するために，「栽培漁業種苗生産，入手，放流実績」[11] を用いて，2006年度のアサリ主産地で実施された天然種苗を用いた移植放流のうち，福岡県産の稚貝を用いたと思われる事例を表５に示した。福岡県産を用いたと思われる稚貝は主に国内のアサリ産地３県で放流され，もっとも多いＡ県では80トン，３県の合計で127トンが放流されている。移植放流された稚貝は，殻長15 ～ 26ｍｍであり，福岡県の漁業調整規則違反となる可能性がある。小型のアサリを採捕することは，福岡有明のアサリ資源に大きな影響を与え，アサリの資源管理を非常に困難にしている。共販体制が整えば，アサリを一カ所に集荷し，出荷サイズを現在より厳しく確認することが可能である。

今後，福岡有明において，アサリ漁業者の漁家経営を安定させるためには，産地単価の向上させることがもっとも重要であり，そのためには，現在の浜仲買主導体制から脱却し，漁業者主導の共販体制を整えることが必要である。他のアサリ産地では，漁連がアサリ流通に関与し，共販体制や加工販売体制を構築していることから，福岡有明においても福岡県有明漁連によるアサリ流通の体制づくりが期待される。また，共販体制の構築は，福岡有明アサリのブランド化や消費者への直接販売など，流通において可能性を広げることができる。さらに，共販体制の元では，アサリの出荷サイズを確認・監視することができるため，アサリの資源・漁業管理においても有効な手段となることから[12]，共販体制は監視という大きな役割も担うことができ，稚貝採捕を減らすことができると考えられる。

文　献

１）佐々木克之：内湾および干潟における物質循環と生物生産　干潟と漁業生産物１，有明海のアサリ．海洋と生物，121，162-166 (1999).

2）農林水産省：漁業養殖業生産統計年報.
3）財務省：貿易統計.
4）福岡市：福岡市中央卸売市場年報（2006）.
5）広島市：広島市中央卸売市場年報（2006）.
6）大阪市：大阪市中央卸売市場年報（2006）.
7）京都市：京都市中央卸売市場年報（2006）.
8）東京都：東京都中央卸売市場年報（2006）.
9）仙台市：仙台市中央卸売市場年報（2006）.
10）廣吉勝治，長濱眞一：アサリの需要構造－生産から消費に到る諸問題－，第22巻，第４号，1-37（1987）.
11）水産庁他：栽培漁業種苗生産，入手，放流実績（全国）－資料編－（2006）.
12）片山千賀之：アサリ漁業の構造変化－熊本有明を事例として－，地域漁業研究，第42巻，第３号，27-46（2002）.